



2024年12月25日

各 位

会 社 名 永大化工株式会社  
代表者名 代表取締役社長 浦 義則  
(コード番号:7877 東証スタンダード市場)  
問合せ先 執行役員管理本部長 田中 敏幸  
(TEL. 06-6791-3355)

## 「モノマテリアル・フロアマット」製品開発の取り組みについてのお知らせ

当社は、合成樹脂製品製造に携わる企業としての責任を自覚し、SDGsの実現に向けた取り組みの一環として、CO<sub>2</sub>排出量削減を実現した「モノマテリアル・フロアマット」を開発しましたのでお知らせいたします。開発品は今後、スズキ株式会社の四輪製品用純正用品に採用されていく予定です。

### 記

#### 1. 製品開発の背景

当社は、卓越した独自の技術を根底にその技術を時代に対応させながら新しい分野へと応用してゆく研究開発活動を通して、「品質の維持」「適正な価格」「納期の厳守」を経営理念に掲げ、プラスチック製品のメーカーとして、自動車用品分野ならびに産業資材分野において、企画開発設計から提案までトータルにサポートできる「ものづくり企業」を目指して社会の発展に貢献するため、プラスチック関連事業を展開してまいりました。

国内外で関心が高まっているカーボンニュートラル社会実現への貢献を目指して、各企業での取り組みが加速しております。こうした背景を踏まえ、これまで培った技術とノウハウを最大限に活かした、サステナブルな商材である「モノマテリアル・フロアマット」を開発いたしました。今後については、スズキ株式会社への採用拡大を目指すとともに、多くの自動車メーカーへの拡販を目指してまいります。

#### 2. 「モノマテリアル・フロアマット」の概要

「モノマテリアル・フロアマット」は、フロアマットのパイル素材（カーペット系）を従来製品のポリプロピレンから、サステナブル素材であるリサイクルポリエステルに置き換えることで、マット製造時のCO<sub>2</sub>排出量を削減することに加え、従来製品が複合体であるために分離・リサイクルが困難であった課題に対応した、製品全てがポリエステル100%で構成されたものです。

また、「モノマテリアル・フロアマット」はバックキング（裏面材料）にリサイクルポリエステル不織布を採用することにより、大幅な軽量化を実現しています。従来製品との比較で重量を約40%削減<sup>\*1</sup>することで、原材料製造時のCO<sub>2</sub>排出量の削減や、燃費の改善、製品輸送時のCO<sub>2</sub>排出量削減への寄与が見込まれます。

加えて、リサイクルポリエステル不織布バックキングのマットでは止水性の担保が課題とされる中、「モノマテリアル・フロアマット」は止水性を担保。軽量化と機能性を両立しました。

さらに、「モノマテリアル・フロアマット」およびマットのリサイクル技術の開発成功により、従来製品では不可能であった、マット製造時に発生する端材を樹脂材料にリサイクルし、カーペットのパイル・バックキング原料として再利用する水平リサイクル技術を確立しました。これにより、リサイクルポリエステルの使用と軽量化を通じて、従来製品と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約70%削減<sup>\*2</sup>することが可能となります。

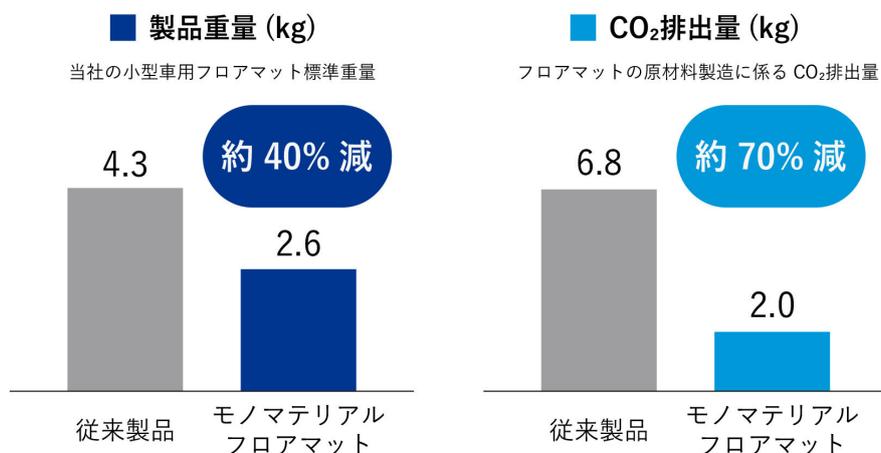
将来的には市場で使われた「モノマテリアル・フロアマット」の回収からリサイクルを目標とすることで、より一層カーボンニュートラル社会の実現に貢献することを目指してまいります。

当社は、各種プラスチックのリサイクル技術と樹脂成形加工のノウハウを確立し、将来のカーボンニュートラルに向けた新しい車両用品のご提案へとつなげたいと考えております。

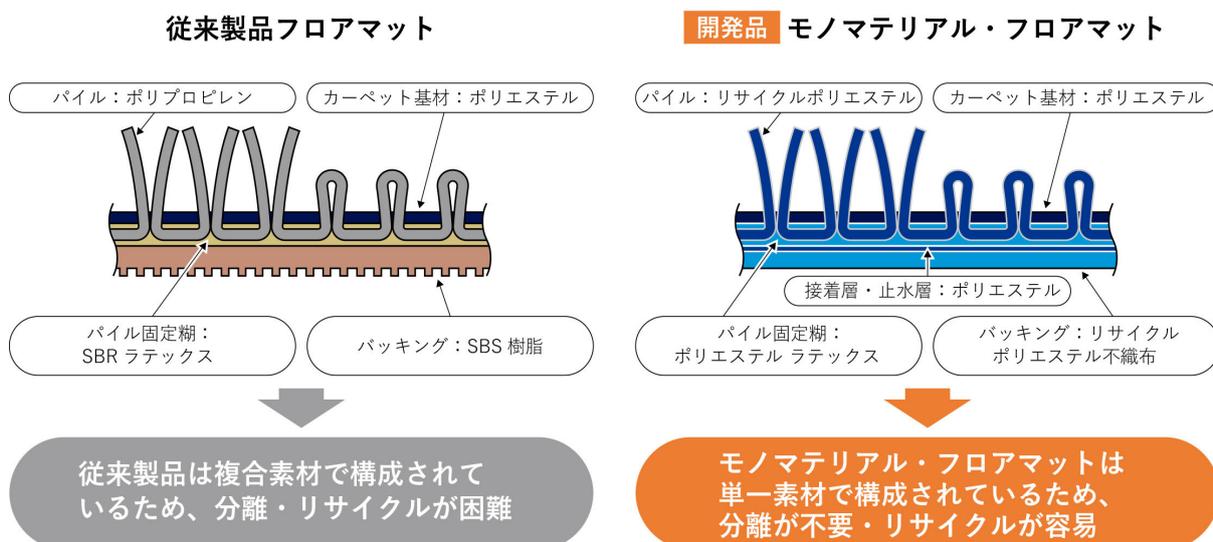
※1 当社の小型車用フロアマット従来製品（SBS樹脂バックング品）標準重量との比較

※2 フロアマットの原材料製造に係るCO<sub>2</sub>排出量比較

## 製品重量・CO<sub>2</sub>排出量比較グラフ



## 開発品の断面模式図とバックング素材の比較



### <素材・用語の説明>

SBR : 石油原料から作られた合成ゴム。天然ゴムに近い性質を持つ。

ラテックス : 合成ゴムを主成分とした液状の糊（接着剤）。パイルをマットに固定するために用いる。

SBS樹脂 : ゴムの特性と、成形性を併せ持つ、石油原料から作られた樹脂。

### 3. 今後の見通し

2025年3月期の当社業績に与える影響はありません。今回の開発品は、中期的な企業価値の向上に資するものと考えております。なお、今後公表すべき事項が生じた場合には、速やかに公表いたします。

以上